

日本体育・スポーツ経営学会第29回大会発表 「マナーキッズテニス教室の評価と今後の課題」

篠原梢（早稲田大学）木村和彦（早稲田大学教授）

原田尚幸（和光大学教授）

1 緒言

文部科学省の「体力・運動能力調査（平成16年度）によると、昭和60年以降から子どもの体力の低下傾向が続いていると指摘している。青少年の体力水準に着目すると、週1回以上の運動実施群は、非実施群と比較して体力水準が高いことが報告されている。

また、近年では、青少年のマナーの乱れが社会問題として注目を集めるようになっており、「しつけ喪失」と形容されている。子どもを持つ保護者は、スポーツ活動に対して礼儀やマナーといった基本的な生活習慣の形成や社会性の育成、さらには責任感や忍耐力といった精神面の育成という人間的な成長に期待していることが指摘されている。（山口、2004）

このような社会的背景の中、「マナーキッズテニスプロジェクト」が2004年から始動した。このプロジェクトは、財団法人日本テニス協会が子どもたちにテニスというスポーツに親しんでもらいながら世界レベルの競技者の育成を目指すと共に、専門家による挨拶、礼儀作法の基本的なマナーの習得、スポーツマンシップの体得などを目指している。

2 研究目的

本研究は、開始から2年目を迎えた「マナーキッズ教室」に参加する子どもの保護者を対象にして質問紙調査を実施し、テニス教室に対する期待や評価を明らかにすることにより、マナーキッズテニス教室の現状と今後の方向性について検討することを目的としている。

3 研究方法（略）

4 結果（要旨）

保護者がマナーキッズテニス教室に子どもが参加したことで期待する効果については、「テニスに親しむきっかけ」に対する期待が高く、以下「礼儀・マナーの習得」「仲間との触れ合い」の順になっていた。

保護者のマナーキッズテニス教室に対する評価は、「子どもがテニスに親しむきっかけになった」「子どもがテニスを楽しんでいた」に対する保護者の評価が高くなっており、以下「保護者自身のマナー・躰についての理解が深まった」の順になっていた。

今後も子どもが通う幼稚園や小学校、または自治体でマナーキッズテニス教室の開催を望むかどうかについては、「続けて欲しい」と回答した人が圧倒的に多くなっていた。（98.4%）

マナーキッズテニス教室に対する保護者の満足度に最も影響を及ぼす要因は、「保護者自身のマナー・躰についての理解が深まった」ことであった。その他で有意に影響を及ぼす要因は、「子どもがテニスに親しむきっかけになった」「子どもの礼儀・マナーが身に

ついた」「子どもがテニスを楽しんでいた」であった。

5 結論

マナーキッズテニス教室に子どもが参加することで保護者に期待する効果には、子どもの変化のみに焦点が絞られていた。しかしながら、実際に教室へ参加した保護者の満足度に最も影響を及ぼしていたのは、子どもの変化のみならず保護者自身がマナーや躰に対する理解を深めることであった。このことから、マナーキッズテニス教室では、子どもと一緒に保護者が直接的、間接的に参加して同時に学ぶことが非常に重要であるといえる。

マナーキッズテニス教室は、一過性のイベントのような側面がある。この点から考えると、子どもと保護者が同時に学ぶことにより、教室参加後も家庭や地域においてその効果を持続させる環境づくりに留意する必要がある。

今後は、指導者の育成を踏まえつつ、幼稚園・小学校といった「学校」が連携を図りながらマナーキッズテニス教室で学んだことを実践していくことが重要であると考えられる。